

報道関係者各位

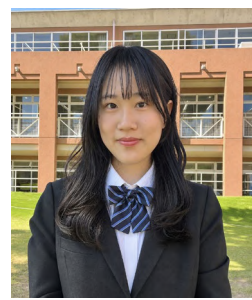
2026年6月9日 配信 No.2026-14
立命館アジア太平洋大学 (APU)

次世代の学びをつくる「第3代高校生特命副学長」決定
“ないものは、つくればいい。大学はもっとおもしろくなる。”
～若者の声が大学の未来を動かす～

立命館アジア太平洋大学（大分県別府市、学長：米山 裕、APU）は、新たな大学ガバナンスの形として、学生・高校生が大学の課題抽出や提言に直接関わる「特命副学長制度」において、第3代高校生特命副学長および特命副学長を支えるサミットメンバーを決定しました。今回選ばれたのは、全国の応募者の中から選出された高校生特命副学長1名と、サミットメンバー4名の計5名。2026年6月から2027年3月にかけて、「学びの未来を考える」をテーマに活動を行います。

本制度は2024年にスタートし、今年で3年目です。選考は公募制で行われ、2026年2月～4月の期間にエントリーを受け付けました。全国から集まった応募者は、一次選考（書類＋プレゼン動画）と、APU役員による最終選考（オンライン面談）を経て、個性と意欲あふれるメンバーが選ばれました。

【2026年度 高校生特命副学長とサミットメンバー】



【今後の高校生特命副学長・サミットメンバー活動予定】

- 6月 対面キックオフ（1泊2日、テーマ決め）
- 7月 オープンキャンパス参加（在校生副学長との交流）
- 8月 エコキャンプ（集中合宿・チームビルディング）
- 10月 中間発表会
- 11～12月 提案内容ブラッシュアップ期間
- 1～2月 提案内容まとめ期間
- 3月 最終発表会

※活動予定は、追加または変更になる可能性があります。

それぞれのプロフィール・所信表明は2ページ目をご参照ください。



高校生特命副学長

高橋 朋花 (たかはし ほのか)

渋谷教育学園渋谷中学高等学校 2年生

大学に行く目的は人それぞれですが、私の高校では「自由になるため」だと学びました。自ら選び、自ら決める自由を得ることです。私は、この自由が大学の中で完結するのではなく、大学からそのコミュニティへ広がっていくべきだと考えています。

世界中の多様なコミュニティを持つAPUだからこそ、より多くの人へ学びの機会や新たな選択肢を届けたいです。高校生特命副学長として、アイデアを実践につなげる活動に挑戦します！



サミットメンバー

赤尾 瑛仁 (あかお あきひと)

ぐんま国際アカデミー高等部 2年生

サミットメンバーに選んでいただきました、赤尾瑛仁です。

AIといった技術が急速に発展する今、「知識を覚えること」だけではなく、自分で問いを立て、考え続ける力がこれまで以上に重要になっていると感じています。だからこそ、高校生という立場だからこそ見える視点を活かしながら衆志成城の精神で、「当たり前」に問いを生み出し、「ないもの」を「つくって」行きます。



サミットメンバー

石田 鈴 (いしだ れい)

愛知県立愛知総合工科高等学校 2年生

もっとこうだったら、を見つけたとき、「どうせ変わらない」と諦めるのではなく、「まずやってみよう」と思える環境をつくりたい。一人の小さな声にも周りが「それいいね」と賛同して一緒になって形にしていく社会をあたりまえにしたい。そんな思いからサミットメンバーを務めます。多様な価値観を尊重しながら人と人をつなぎ、今の私だからこそ気づける声を形にしていきます。



サミットメンバー

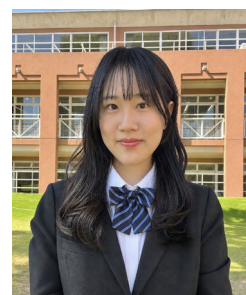
木本 知沙 (きもと ちさ)

広島県立広島観智学園高等学校 2年生

可能性を広げられる場、価値を創造していける場、そしてワクワクできる場。

これは私がこれからの大学に期待する姿です。

サミットメンバーとして、多様な価値観を持つ仲間との対話を大切にしながら、高校生だからこそ持てる視点で、新たな大学の可能性を提案していきたいです。そして、この活動が未来の大学の発展につながるよう、一つひとつの議論や提案に真剣に向き合い、全力で頑張ります！



サミットメンバー

若原 菜乃 (わかほら なの)

三田国際科学学園高等学校 2年生

英語は私たちにとって身近な存在でありながら、どこか遠くに感じる存在でもあります。激しく変化するこれからの社会を生きていく上で、可能性を広げる大きな力でもあるからこそ、英語を「一部の人のためのもの」ではなく、より多くの学生にとって身近で挑戦しやすいものにしたいと考えています。サミットメンバーとして、高校生ならではの視点を活かし、学生と大学をつなぐ架け橋になりたいです。